



# 令和5年度第2回神奈川県保健医療計画推進会議 資料1

## 協議：令和5年度第1回保健医療計画推進会議 における主な意見について

# 1 前回会議（令和5年5月30日開催）について

## 協議事項

第8次神奈川県保健医療計画の策定に向けた基本的な考え方について

## 2 主な意見の概要

### ○基本的な考え方と骨子案について

委員名	主な意見の概要	県対応(案)
須藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療DXはぜひ推進してほしい。</li> <li>●医療DXの導入推進に加え、情報の利活用の推進についても計画に明文化してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案たたき台作成の際に、8次計画への反映の可否も含めて検討します。</li> </ul>
窪倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基準病床数について、ロジックモデルの活用についての考え方をあらかじめ整理すべき。</li> <li>●基準病床数の見直しが実現できるかどうか不確かな状況の中、論理的なロジックを盛り込んで議論することは、7次計画にはなかった新しいテーマになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8次計画策定当初は6事業・5疾病＋在宅のみを想定しており、その他の項目にロジックモデルの視点を導入できるかどうかは、中間見直しの際に検討します。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●8次計画を立てる以上、現実的かつ実現可能な計画を立てるべき。</li> <li>●基準病床について、国が示す指標と県の実態に乖離がある。</li> <li>●医療従事者に限りがある中で、医療DX、連携等を含めた効率化、医療と介護を一体的に考えていくことが重要。(窪倉委員からも同様の意見あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見については、8次計画策定の参考とさせていただきます。</li> </ul>
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医師の働き方改革を考える上で、病院を中心に他の医療職へのタスクシフト、タスクシェアが重要。</li> <li>●病院薬剤師の確保について、8次計画に具体的な記載が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案たたき台作成の際に、8次計画への反映の可否も含めて検討します。</li> </ul>
井伊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者の緊急入院の在り方を考えていくことが必要。高齢者の在宅復帰率の低下、再入院率の上昇など、数字を明らかにして議論することが必要。</li> <li>●高齢者施設における医療提供について、現場の把握が不十分なのではないか。現状を示すデータがあるとよい。</li> <li>●医師の確保や働き方改革について、病床転換だけではなく、総合診療専門医と一緒に働ける看護師などの育成が不可欠。総合診療専門医の育成が本県でどの程度進んでいるのかデータがあるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の推進会議での議論に向け、検討します。</li> </ul>

## 2 主な意見の概要

### ○医療圏の設定について

委員名	主な意見の概要	結論
小松委員	●横浜市の二次医療圏について、見直しは不要。	横浜市の二次医療圏について、8次計画においても現行の医療圏を継続することが明確になった。
窪倉委員	●県と横浜市の分析・評価に賛成する。見直しは不要。	
水野委員	●横浜市は1つの医療圏で十分対応できている。見直しは不要。	
原田委員	●横浜市では医療圏を1つにした後も7つの地域医療検討会がそれぞれ機能していて、その中で方面別に、地域により密着した課題について、地域に合った形での解決策を議論している。横浜市としては今のやり方を継続したい。	

### ○その他

委員名	主な意見の概要	県対応(案)
小松委員	●今後の地域医療構想を考えるに当たっては、入院病床の議論ではなく、在宅や施設での医療提供がどこまでできるかについて議論することが必要。	ご意見については、今後の推進会議での議論に向け、検討します。